看做ス

第二十一條　第十九條第一項ノ法人カ財產目錄又ハ社員名簿ヲ備ヘサルトキハ民法施行前ノ從遲滯ナク之ヲ作ルコトヲ要ス

第二十二條　法人ノ代表者カ前三條ノ規定ニ反シ認可ヲ受ケ、登記ヲ爲シ又ハ財產目錄若クハ社員名簿ヲ作ルコトヲ怠リタルトキハ五圓以上貳百圓以下ノ過料ニ處セラル

第二十三條　第十九條第一項ノ法人カ其目的以外ノ事業ヲ爲シ又ハ認可ノ條件ニ違反シ其他公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務官廳ハ其解散ヲ命スルコトヲ得

第二十四條　民法ノ規定ニ依リ法人ニ關シテ登記シタル事項ハ裁判所ニ於テ遲滯ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス

第二十五條　主務官廳カ正當ノ理由ナクシテ法人ノ設立許可ヲ取消シ又ハ其解散ヲ命シタルトキハ其法人ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十六條　法人ノ清算人カ民法第七十九條及ヒ第八十一條第一項ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ハ裁判所カ爲スヘキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十七條　剝奪公權者及ヒ停止公權者ハ法人ノ理事監事又ハ清算人タルコトヲ得ス

第二十八條　民法中法人ニ關スル規定ハ當分ノ內神社、寺院、祠堂及ヒ佛堂ニハ之ヲ適用セス

第二十九條　民法施行前ニ出訴期限ヲ經過シタル債權ハ時效ニ因リ消滅シタルモノト看做ス

第三十條　民法施行前ニ出訴期限ヲ經過セサル債權ニ付テハ民法中時效ニ關スル規定ヲ適用ス

第三十一條　民法施行前ニ進行ヲ始メタル出訴期限カ民法ニ定メタル時效ノ期間ヨリ長キトキハ舊法ノ規定ニ從フ但其殘期カ民法施行ノ日ヨリ起算シ民法ニ定メタル時效ノ期間ヨリ長キ

トキハ其日ヨリ起算シテ民法ノ規定ヲ適用ス

第三十二條　前條但書ノ規定ハ舊法ニ出訴期限ナキ權利ニ之ヲ準用ス

第三十三條　前三條ノ場合ニ於テ民法中時效ノ中斷及ヒ停止ニ關スル規定ハ民法施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス

第三十四條　第三十條乃至第三十二條ノ規定ハ時效期間ノ性質ヲ有セサル法定期間ニ之ヲ準用ス

第三章　物權編ニ關スル規定

第三十五條　慣習上物權ト認メタル權利ニシテ民法施行前ニ發生シタルモノト雖モ其施行ノ後ハ民法其他ノ法律ニ定メタルニ非サレハ物權タル效力ヲ有セス

第三十六條　民法ニ定メタル物權ハ民法施行前ニ發生シタルモノト雖モ其施行ノ日ヨリ民法ニ定メタル效力ヲ有ス

第三十七條　民法又ハ不動產登記法ノ規定ニ依リ登記スヘキ權利ハ從來登記ナクシテ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシモノト雖モ民法施行ノ日ヨリ一年內ニ之ヲ登記スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三十八條　民法施行前ヨリ占有又ハ準占有ヲ爲ス者ニハ其施行ノ日ヨリ民法ノ規定ヲ適用ス

第三十九條　民法施行前ヨリ動產ヲ占有スル者カ民法第百九十二條ノ條件ヲ具備スルトキハ民法施行ト同時ニ其動產ノ上ニ行使スル權利ヲ取得ス

第四十條　遺失物ハ明治九年第五十六號布告遺失物取扱規則第二條ニ依リ榜示ヲ爲シタル後一年內ニ其所有者ノ知レサルトキハ民法施行前ニ其榜示ヲ爲シタルトキト雖モ拾得者其所有權

ヲ取得ス但漂着物ニ付テハ明治八年第六十六號布告内國船難破及漂流物取扱規則ノ規定ニ從フ

第四十一條　埋藏物ニ付テハ特別法ノ施行ニ至ルマテ遺失物ト同一ノ手續ニ依リテ公告ヲ爲スコトヲ要ス

第四十二條　民法施行前ヨリ民法第二百四十二條乃至第二百四十六條ノ規定ニ依レハ所有權ヲ取得スヘカリシ狀況ニ在ル者ハ民法ノ施行ト同時ニ民法ノ規定ニ從ヒテ所有權ヲ取得ス但第三者カ正當ニ取得シタル權利ヲ妨ケス

第四十三條　共有者カ民法施行前ニ於テ五年ヲ超ユル期間内共有物ノ分割ヲ爲ササル契約ヲ爲シタルトキハ其契約ハ民法施行ノ日ヨリ五年ヲ超エサル範圍内ニ於テ其效力ヲ有ス

第四十四條　民法施行前ニ設定シタル地上權ニシテ存續期間ノ定ナキモノニ付キ當事者カ民法第二百六十八條第二項ノ請求ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ設定ノ時ヨリ二十年以上民法施行ノ日ヨリ五十年以下ノ範圍内ニ於テ其存續期間ヲ定ム

地上權者カ民法施行前ヨリ有シタル建物又ハ竹木アルトキハ地上權ハ其建物ノ朽壞又ハ其竹木ノ伐採期ニ至ルマテ存續ス

地上權者カ前項ノ建物ニ修繕又ハ變更ヲ加ヘタルトキハ地上權ハ原建物ノ朽壞スヘカリシ時ニ於テ消滅ス

第四十五條　外國人又ハ外國法人ノ爲メニ設定シタル地上權ニハ條約又ハ命令ニ別段ノ定ナキ場合ニ限リ民法規定ヲ適用ス

第四十六條　民法第二百七十五條及ヒ第二百七十六條ノ期限ハ民法施行前ヨリ同條ニ定メタル

事實カ始マリタルトキト雖モ其始ヨリ之ヲ起算ス

第四十七條　民法施行前ニ設定シタル永小作權ハ其存續期間カ五十年ヨリ長キトキト雖モ其效力ヲ存ス但其期間カ民法施行ノ日ヨリ起算シテ五十年ヲ超ユルトキハ其日ヨリ起算シテ之ヲ五十年ニ短縮ス

民法施行前ニ期間ヲ定メスシテ設定シタル永小作權ノ存續期間ハ慣習ニ依リ五十年ヨリ短キ場合ヲ除ク外民法施行ノ日ヨリ五十年トス

第四十八條　民法ノ規定ニ從ヘハ民法施行前ヨリ先取特權ヲ有スヘカリシ債權者ハ其施行ノ日ヨリ先取特權ヲ有ス

第四十九條　民法第三百七十條ノ規定ハ民法施行前ニ抵當權ノ目的タル不動産ニ附加シタル物ニモ亦之ヲ適用ス

第五十條　民法第三百七十四條ノ規定ハ民法施行前ニ設定シタル抵當權ニモ亦之ヲ適用ス但民法施行ノ日ヨリ一年内ニ特別ノ登記ヲ爲シタル利息其他ノ定期金ニ付テハ元本ト同一ノ順位ヲ以テ抵當權ヲ行フコトヲ得

第五十一條　民事訴訟法第六百四十九條第二項及ヒ第三項ヲ改メテ左ノ三項トス

不動産ノ上ニ存スル一切ノ先取特權及ヒ抵當權ハ賣却ニ因リテ消滅ス

留置權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其留置權ヲ以テ擔保スル債權ヲ辨濟スル責ニ任ス

質權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其質權ヲ以テ擔保スル債權及ヒ質權者ニ對シテ優先權ヲ有スル者ノ債權ヲ辨濟スル責ニ任ス

第四章　債權編ニ關スル規定

第五十二條　明治十年第六十六號布告利息制限法第三條ハ之ヲ消除ス

第五十三條　民法施行前ヨリ債務ヲ負擔スル者カ其施行ノ後ニ至リ債務ヲ履行セサルトキハ民法ノ規定ニ從ヒ不履行ノ責ニ任ス

前項ノ規定ハ債權者カ債務ノ履行ヲ受クルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受クルコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス

第五十四條　民事訴訟法第七百三十三條第一項ヲ左ノ如ク改ム

民法第四百十四條第二項及ヒ第三項ノ場合ニ於テハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ民法ノ規定ニ從ヒテ決定ヲ爲ス

第五十五條　民事訴訟法第七百三十四條ヲ左ノ如ク改ム

債務ノ性質カ強制履行ヲ許ス場合ニ於テ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ相當ノ期間ヲ定メ債務者カ其期間內ニ履行ヲ爲サヽルトキハ其遲延ノ期間ニ應シ一定ノ賠償ヲ爲スヘキコト又ハ直チニ損害ノ償賠ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ要ス

第五十六條　金錢ヲ目的トスル債務ヲ負擔シタル者カ民法施行前ヨリ其履行ヲ怠リタルトキハ損害賠償ノ額ハ其施行ノ日以後ハ民法第四百四條ニ定メタル利率ニ依リテ之ヲ定ム但民法第四百十九條第一項但書ノ適用ヲ妨ケス

第五十七條　指圖證券無記名證券及ヒ民法第四百七十一條ニ掲ケタル證券ハ公示催告ノ手續ニ依リテ之ヲ無效ト爲スコトヲ得

第五十八條　民法施行前ニ發生シタル債務ト雖モ相殺ニ因リテ之ヲ免ルヽコトヲ得

雙方ノ債務カ民法施行前ヨリ互ニ相殺ヲ爲スニ適シタルトキハ相殺ノ意思表示ハ民法施行ノ日ニ遡リテ其效力ヲ生ス

第五十九條　民法第六百五條ノ規定ハ民法施行前ニ爲シタル不動產ノ賃貸借ニモ亦之ヲ適用ス

第六十條　第四十五條ノ規定ハ外國人又ハ外國法人ニ土地ヲ賃貸シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十一條　刑法附則第五十四條乃至第六十條ハ之ヲ削除ス

第五章　親族編ニ關スル規定

第六十二條　民法施行ノ際家族タル者ハ民法ノ規定ニ依レハ家族タルコトヲ得サル者ト雖モ之ヲ家族トス

家族ハ民法施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ戶主權ニ服ス

第六十三條　民法ノ規定ニ依レハ父又ハ母ノ家ニ入ルヘキ者ト雖モ民法施行ノ際他家ニ在ル者ニハ其規定ヲ適用セス

第六十四條　民法施行前ニ隱居者又ハ家督相續人カ詐欺又ハ强迫ニ因リ隱居ヲ爲シ又ハ相續ヲ承認シタルトキハ民法第七百五十九條ノ規定ニ依リテ之ヲ取消スコトヲ得但第三十二條及ヒ第三十四條ノ適用ヲ妨ケス

民法第七百六十條ノ規定ハ民法施行前ニ家督相續人ノ債權者ト爲リタル者ニモ亦之ヲ適用ス

第六十五條　民法施行前ニ爲シタル婚姻又ハ養子緣組カ其當時ノ法律ニ依レハ無效ナルトキト雖モ民法ノ規定ニ依リ有效ナルヘキトキハ民法施行ノ日ヨリ有效トス

第六十六條　民法第七百六十七條第一項ノ期間ハ前婚カ民法施行前ニ解消シ又ハ取消サレタルトキト雖モ其解消又ハ取消ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第六十七條　民法施行前ニ生シタル事實カ民法ニ依リ婚姻又ハ養子縁組ノ取消ノ原因タルヘキトキハ其婚姻又ハ養子縁組ハ之ヲ取消スコトヲ得但其事實カ既ニ民法ニ定メタル期間ヲ經過シタルモノナルトキハ此限ニ在ラス

第六十八條　民法施行前ニ爲シタル婚姻又ハ養子縁組ト雖モ其施行ノ日ヨリ民法ニ定メタル親族カヲ生ス

第六十九條　民法施行前ニ婚姻ヲ爲シタル者カ夫婦ノ財産ニ付別段ノ契約ヲ爲ササリシトキハ其財産關係ハ民法施行ノ日ヨリ法定財産制ニ依ル

民法施行前ニ夫婦カ其財産ニ付キ契約ヲ爲シタルトキハ其契約ハ婚姻届出ノ後ニ爲シタルモノト雖モ其效力ヲ存ス但其契約カ法定財産制ニ異ナルトキハ民法施行ノ日ヨリ六ヶ月内ニ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七十條　民法施行前ニ生シタル事實カ民法ニ依リ離婚又ハ離縁ノ原因タルヘキトキハ夫婦又ハ養子縁組ノ當事者ノ一方ハ離婚又ハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第六十七條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十一條　嫡出ノ推定及ヒ否認ニ關スル民法ノ規定ハ民法施行前ニ懷胎シタル子ニモ亦之ヲ適用ス

第七十二條　子ハ民法施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ父又ハ母ノ親權ニ服ス

第七十三條　裁判所ハ民法施行前ニ生シタル事實ニ據リテ親權又ハ管理權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得

第七十四條　民法第九百條第一號ノ場合ニ於テ民法施行ノ際未成年者ノ後見人タル者アルトキハ其後見人ハ民法施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ其任務ヲ行フ

第七十五條　民法第九百條第一號ノ場合ニ於テ民法施行ノ際未成年者カ後見人ヲ有セサルトキハ民法ニ定メタル者其後見人ト爲ル

第七十六條　民法施行前ニ民法第七條又ハ第十一條ニ掲ケタル原因ノ爲メニ後見人ヲ附シタル者アル場合ニ於テ後見人其他民法第七條ニ掲ケタル者ノ請求ニ因リ禁治産ノ宣告アリタルトキハ後見人ハ其宣告ノ時ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ後見人ノ任務ヲ行ヒ禁治産ノ宣告アリタルトキハ保佐人ノ任務ヲ行フ

第七十七條　民法施行前ニ未成年又ハ民法第七條若クハ第十一條ニ掲ケタル原因ニ非サル事由ノ爲メニ選任シタル後見人ノ任務ハ民法施行ノ日ヨリ終了ス

未成年者ノ後見人又ハ民法第七條若クハ第十一條ニ掲ケタル原因ノ爲メニ選任シタル後見人カ民法第九百八條ニ該當スルトキ亦同シ

第七十八條　民法第九百三十七條及ヒ第九百四十條乃至第九百四十二條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

民法第九百三十八條ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十九條　第七十四條又ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ後見人ノ任務ヲ行フ者ハ後見監督人ヲ選任セシムル爲メ遅滯ナク親族會ノ招集ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要スルモノトシ之ニ違反シタルトキハ親族會ハ其後見人ヲ免黜スルコトヲ得

第八十條　第七十四條又ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ後見人ノ任務ヲ行フ者ハ遅滯ナク後見人ノ財産ヲ調査シ其目録ヲ調製スルコトヲ要ス

民法第九百十七條第二項第三項第九百十八條及ヒ第九百十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ用ス

第八十一條　民法第九百二十四條及ヒ第九百二十七條ノ規定ハ後見人カ第七十四條又ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ其任務ヲ行フ場合ニ之ヲ準用ス

第八十二條　民法第九百三十條ノ規定ハ後見人カ民法施行前ニ被後見人ノ財産又ハ被後見人ニ對スル第三者ノ權利ヲ讓受ケタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第八十三條　後見人カ民法施行前ヨリ被後見人ノ財産ヲ貸借セルトキハ後見監督人ヲ選任セシムル爲メ招集シタル親族會ノ同意ヲ求ムルコトヲ要ス若シ親族會カ同意ヲ爲サヽリシトキハ貸貸借ハ其效力ヲ失フ

第六章　相續編ニ關スル規定

第八十四條　民法施行前ニ民法第九百六十九條及ヒ第九百九十七條ニ掲ケタル行爲ヲ爲シタル者ト雖モ相續人タルコトヲ得ス

第八十五條　民法第九百七十四條及ヒ第九百九十五條ノ規定ハ相續人タルヘキ者カ民法施行前ニ死亡シ又ハ其相續權ヲ失ヒタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第八十六條　相續人廢除ノ原因タル事實カ民法施行前ニ生シタルトキト雖モ廢除ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第八十七條　相續人廢除ノ取消ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ廢除シタル相續人ニモ亦之ヲ適用ス

第八十八條　家督相續人指定ノ取消ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ指定シタル家督相續人ニ

モ亦之ヲ適用ス

第八十九條　民法第九百八十九條ノ規定ハ民法施行前ニ前戶主ノ債權者ト爲リタル者ニモ亦之ヲ適用ス

第九十條　民法第千七條及ヒ第千八條ノ規定ハ民法施行前ニ爲シタル贈與ニモ亦之ヲ適用ス

第九十一條　相續ノ承認、拋棄及ヒ財産ノ分離ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ開始シタル相續ニハ之ヲ適用セス

第九十二條　相續人曖昧ノ場合ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ開始シタル相續ニ付テハ其施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス

第九十三條　相續財産ノ管理人カ民法第千五十七條ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ハ裁判所カ同法第千五十八條ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第九十四條　遺言ノ成立及ヒ取消ニ關シテハ其當時ノ法律ヲ適用シ其效力ニ付テハ遺言者ノ死亡ノ時ノ法律ヲ適用ス

第九十五條　民法第千百三十二條乃至第千百三十六條及ヒ第千百三十八條乃至第千百四十五條ノ規定ハ民法施行前ニ爲シタル婚姻ニモ亦之ヲ適用ス

法律第十一號參照

明治五年十月二日第二百九十五號布告ハ人身賣買ヲ禁シ諸娼公人年限ヲ定メ藝娼妓ヲ解放シ之ニ附キテノ貸借訴訟ハ取上ケサル件、同六年一月十八日第二十一號布告ハ妻ニアラサル婦女分娩ノ兒子ハ私生ト爲シ其嫡女ノ引受ヲ爲シムル件、同年十二月第二十八號布告ハ華士族家督相續ノ件、同年十二月第四十號布告ハ貸金銀利足ノ利ヲ飲メ雙方示談ノ上證文ニ記載セシムル件、

同年、五月第百六十二號布告ハ夫婦ノ際已ムヲ得サル事故アリテ其婦離緣ヲ請フモ夫之ヲ肯ヒサルトキハ出訴スルヲ許ス件、同年五月二十五日第百七十七號布告ハ脫籍並ニ行衛知レサル者八十歲ヲ過クレハ除籍スルノ件、同年七月十八日第二百五十二號布告ハ負債ニテ身代限ノ者ヘ貸金穀其他義務ヲ得ヘキ者定約期限未滿內ノ分處置振ノ件、同七年三月十七日第二十七號布告ハ預金穀證書中封印ノ儘預リ或ハ使用セサルノ明文ナキモノハ出訴ノ節貸金同樣裁判セシムル件同八年四月二十日第六號布告ハ民法裁判負債者失踪後ノ訴訟成例改正ノ件、同年四月二十日第六十三號布告ハ金銀其他用證書ニ數名ノ連印中失踪又ハ死亡シ相續人ナキトキ償却方ノ件、同九年五月二十日第七十五號布告ハ合家ヲ禁止シ從前合家セシ分取扱方ノ件、同年七月六日第九十九號布告ハ金穀等借用證書識渡ノ節書換ヘシムル件、同十年七月七日第五十號布告ハ諸證書ノ姓名ハ自書シ實印ヲ押サシムル等ノ件、同十四年十二月二十八日第七十三號布告ハ無能力者法律ニ定メタル代人及ヒ民事證當人ノ件、同十七年六月十日第二十號布告ハ單身戶主死亡又ハ除籍者絕家期限ノ件同六年十一月十七日第十八號布告地所賣入書入規則第十一條ハ「地所ハ勿論墳墓ノミタリトモ外國人ヘ賣買賣入書入等致シ金子請取又ハ借受候儀一切不相成候事」、同十年九月十一日第六十六號布告利息制限法第三條ハ「法律上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ利息ノ高ヲ定メサルトキ裁判所ヨリ言渡ス所ノ者ニシテ元金ノ多少ニ拘ラス百分ノ六トス」トノ件ナリ

本法第十四條ニ掲クル明治三十年七月十七日第三十六號布告刑法第十條第三號、第三十五條、第三十六條、第五十五條中、同十四年十二月十九日第六十七號布告刑法附則第四十一條、同年十二月二十八日陸軍刑法第十八條第四號第三十二條中及海軍刑法第十九條第四號第二十二條ノ削除ハ禁治產ニ關スル件ナリ

刑法附則第五十四條乃至第六十條ハ賠償處分ニ關スル件ナリ

國籍法（明治三十二年三月法律第六十六號）

第一條　子ハ出生ノ時其父カ日本人ナルトキハ之ヲ日本人トス其出生前ニ死亡シタル父カ死亡ノ時日本人ナリシトキ亦同シ

第二條　父カ子ノ出生前ニ離婚又ハ離緣ニ因リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタルトキハ前條ノ規定ハ胎ノ始ニ遡リテ之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ父母カ共ニ其家ヲ去リタル場合ニハ之ヲ適用セス但母カ子ノ出生前ニ復籍ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第三條　父カ知レサル場合又ハ國籍ヲ有セサル場合ニ於テ母カ日本人ナルトキハ其子ハ之ヲ日本人トス

第四條　日本ニ於テ生マレタル子ノ父母カ共ニ知レサルトキ又ハ國籍ヲ有セサルトキハ其子ハ之ヲ日本人トス

第五條　外國人ハ左ノ場合ニ於テ日本ノ國籍ヲ取得ス

一　日本人ノ妻ト爲リタルトキ

二　日本人ノ入夫ト爲リタルトキ

三　日本人タル父又ハ母ニ依リテ認知セラレタルトキ

四　日本人ノ養子ト爲リタルトキ

五　歸化ヲ爲シタルトキ

第六條　外國人カ認知ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一　本國法ニ依リテ未成年者タルコト
二　外國人ノ妻ニ非サルコト
三　父母ノ中先ツ認知ヲ爲シタル者カ日本人ナルコト
四　父母カ同時ニ認知ヲ爲シタルトキハ父カ日本人ナルコト

第七條　外國人ハ內務大臣ノ許可ヲ得テ歸化ヲ爲スコトヲ得
內務大臣ハ左ノ條件ヲ具備スル者ニ非サレハ其歸化ヲ許可スルコトヲ得ス
一　引續キ五年以上日本ニ住所ヲ有スルコト
二　滿二十年以上ニシテ本國法ニ依リ能力ヲ有スルコト
三　品行端正ナルコト
四　獨立ノ生計ヲ營ムニ足ルヘキ資產又ハ技能アルコト
五　國籍ヲ有セス又ハ日本ノ國籍ノ取得ニ因リテ其國籍ヲ失フヘキコト

第八條　外國人ノ妻ハ其夫ト共ニスルニ非サレハ歸化ヲ爲スコトヲ得ス

第九條　左ニ掲ケタル外國人カ現ニ日本ニ住所ヲ有スルトキハ第七條第二項第一號ノ條件ヲ具備セサルトキト雖モ歸化ヲ爲スコトヲ得
一　父又ハ母ノ日本人タリシ者
二　妻ノ日本人タリシ者
三　日本ニ於テ生マレタル者
四　引續キ十年以上日本ニ居所ヲ有スル者
前項第一號乃至第三號ニ掲ケタル者ハ引續キ三年以上日本ニ居所ヲ有スル者ナルトキハ第七條第二項第一號ノ條件ヲ具

備スルコトヲ得ス但第三號ニ掲ケタル者ノ父又ハ母カ日本ニ於テ生マレタル者ナルトキハ此限リニ在ラス

第十條　外國人ノ父又ハ母カ日本人ナル場合ニ於テ其外國人カ現ニ日本ニ住所ヲ有スルトキハ第七條第二項第一號第二號及ヒ第四號ノ條件ヲ具備セサルトキト雖モ歸化ヲ爲スコトヲ得

第十一條　日本ニ特別ノ功勞アル外國人ハ第七條第二項ノ規定ニ拘ハラス內務大臣勅裁ヲ經テ其歸化ヲ許可スルコトヲ得

第十二條　歸化ハ之ヲ官報ニ告示スルコトヲ要ス
歸化ハ其告示アリタル後ニ非サレハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十三條　日本ノ國籍ヲ取得スル者ノ妻ハ夫ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得ス
前項ノ規定ハ妻ノ本國法ニ反對ノ規定アルトキハ之ヲ適用セス

第十四條　日本ノ國籍ヲ取得シタル者ノ妻カ前條ノ規定ニ依リテ日本ノ國籍ヲ取得セサリシトキハ第七條第二項ニ掲ケタル條件ヲ具備セサルトキト雖モ歸化ヲ爲スコトヲ得

第十五條　日本ノ國籍ヲ取得スル者ノ子カ其本國法ニ依リテ未成年者ナルトキハ父又ハ母ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得ス
前項ノ規定ハ子ノ本國法ニ反對ノ規定アルトキハ之ヲ適用セス

第十六條　歸化人、歸化人ノ子ニシテ日本ノ國籍ヲ取得シタル者及ヒ日本人ノ養子又ハ入夫ト爲リタル者ハ左ニ掲ケタル權利ヲ有セス
一　國務大臣ト爲ルコト
二　樞密院ノ議長顧問官ト爲ルコト

三　宮内勅任官ト爲ルコト
四　特命全權公使ト爲ルコト
五　陸海軍ノ將官ト爲ルコト
六　大審院長會計檢査院長又ハ行政裁判所長官ト爲ルコト
七　帝國議會ノ議員ト爲ルコト

第十七條　前條ニ定メタル制限ハ第十一條ノ規定ニ依リテ歸化ヲ許可シタル者ニ付テハ十年ノ後內務大臣勅裁ヲ經テ之ヲ解除スルコトヲ得

第十八條　日本ノ女カ外國人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ日本ノ國籍ヲ失フ

第十九條　婚姻又ハ養子緣組ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得シタル者ハ離婚又ハ離緣ノ場合ニ於テ其外國ノ國籍ヲ有スヘキトキニ限リ日本ノ國籍ヲ失フ

第二十條　自己ノ志願ニ依リテ外國ノ國籍ヲ取得シタル者ハ日本ノ國籍ヲ失フ

第二十一條　日本ノ國籍ヲ失ヒタル者ノ妻及ヒ子カ其者ノ國籍ヲ取得シタルトキハ日本ノ國籍ヲ失フ

第二十二條　前條ノ規定ハ離婚又ハ離緣ニ因リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者ノ妻及ヒ子ニハ之ヲ適用セス但妻カ夫ノ離緣ノ場合ニ於テ離婚ヲ爲サス又ハ子カ父ニ隨ヒテ其家ヲ去リタルトキハ此限ニ在ラス

第二十三條　日本人タル子カ認知ニ因リテ外國ノ國籍ヲ取得シタルトキハ日本ノ國籍ヲ失フ但日本人ノ妻、入夫又ハ養子ト爲リタル者ハ此限ニ在ラス

第二十四條　滿十七年ノ上ノ養子ハ前五條ノ規定ニ拘ハラス既ニ陸海軍ノ現役ニ服シタルトキ又ハ之ニ服スル義務ナキトキニ非サレハ日本ノ國籍ヲ失ハス

現ニ文武ノ官職ヲ帶フル者ハ前六條ノ規定ニ拘ハラス其官職ヲ失ヒタル後ニ非サレハ日本ノ國籍ヲ失ハス

第二十五條　婚姻ニ因リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ婚姻解消ノ後日本ニ住所ヲ有スルトキハ內務大臣ノ許可ヲ得テ日本ノ國籍ヲ回復スルコトヲ得

第二十六條　第二十條又ハ第二十一條ノ規定ニ依リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ日本ニ住所ヲ有スルトキハ內務大臣ノ許可ヲ得テ日本ノ國籍ヲ回復スルコトヲ得但第十六條ニ揭ケタル者カ日本ノ國籍ヲ失ヒタル場合ハ此限ニ在ラス

第二十七條　第十三條乃至第十五條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

附　則

第二十八條　本法ハ明治三十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

261
435

明治四十三年八月三日印刷
仝　年八月八日發行

東京市日本橋區大傳馬鹽町十七番地
編者兼發行者　魚住嘉三郎
東京市神田區松住町五番地
印刷者　菅井十一郎

發行所　東京市日本橋區大傳馬鹽町十七番地
魚住書店

CZ
811
057

禁
電

261
435

033673-000-7

CZ-811-057

改正民法

魚住書店

M43
BBL-0016